

1-3

認知症ケアへの取り組み

安定した生活を目指した個別ケアの実践

職員との関わり

個別ケア

特別養護老人ホーム 東京武蔵野ホーム

介護福祉士 鈴木仁美

東京都板橋区小茂根 4 丁目 11 番.11 号

TEL : 03-3959-7421

E-mail :

FAX : 03-3959-7438

URL : <http://www.komonenosato.com/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

特養 60 名・ショートステイ 7 名。4 人部屋を基本とした特別養護老人ホームです。
最近では、介護度が高い方が増え希望する方に看取りケアまで対応しています。

〈取り組んだ課題〉

○食事時、急いで食事を駆ぎ込んで集中出来ず、周りをキョロキョロ見ている事多く、次に何をすることが伺っていて焦っている状態。
○氏が職員に対し、暴言を言っても氏には関わらず距離が出来てしまっていた。氏が何を考えて言っているのか。氏は本当は何を思っているのかが分からない状態。
○氏の希望で臥床するが、すぐにナースコールが鳴り「起こしてください」と訴え、起きると、「寝かして」と訴える。それが、昼夜共に頻回に聞かれる。本当に寝たいのか、起きていたいのか、他の利用者が臥床したから自分も臥床したいのかが分からない状態。

〈具体的な取り組み〉

- 食事の食べこぼし、食事に集中出来ない、食事状態アセスメント
 - ・ スプーン、自助食器への変更・分析・評価、オーバーテーブル使用
- 職員・利用者への暴言
 - ・ 職員が声掛けをし以前よりも傾聴し氏に関わる時間を増やした
 - ・ 暴言があったときの状況を記録

〈活動の成果と評価〉

○スプーンを変更するが、食べこぼし防止とは繋がらなかった。集中も出来ない。食事席を介助が必要とする方と近かったが、自力で召し上がる方の近くに移動すると集中して食事をする事が出来た。同時に食べこぼしも無くなる。オーバーテーブルの高さを氏に合わせ使用し、車椅子のクッションも氏に合わせ姿勢良好になると食べこぼしも無くなった。→隣の利用者が介助してもらっていると気にして集中出来なかったと思われる。
○一人一人の職員が、氏の顔を見るたび声をかけ、以前まで氏が暴言を言っているのを見て何も返さず距離をあけてしまっていた。しかし、氏に対して意識を変えて職員から接する様になったり、いつでも見ている事を氏に伝えていく事で、安心してもらえたのか氏からも今までにない訴えや会話が出来るようになった。表情も柔らかくなり、穏やかになった。
○以前は日中も夜間もベッド臥床してもすぐに「起こしてください」と落着かず起きてしまい休息出来ていなかった。ほとんど不眠だった。不眠時の薬を飲まないで眠れない事が多かった。現在は、日中は休息出来ており夜間も薬も全く飲まずに良眠出来ている。

〈今後の課題〉

新たに「私はここで死ぬんだよ」と訴え聞かれる為、どのような気持ちで何を求めているのか考えて行きたい。

【メモ欄】